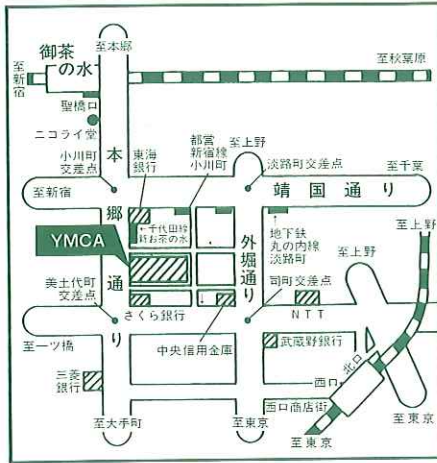


参加対象 教員、社会教育関係者、NGO関係者、一般  
 定員 100名  
 参加費 7,000円  
 昼食 2,000円(11,12日分、希望者のみ)

※なお、なるべくゴミを出さないように、お弁当を持参いただける方はお願いいたします。



■東京YMCA国際奉仕センター

JR

- 神田駅 出口(西口、北口)
- 御茶の水駅 出口(聖橋口)

地下鉄

- 丸の内線 淡路町駅 出口(A-2・A-4)
- 千代田線 新お茶の水駅 出口(B-6)
- 都営新宿線 小川町駅 出口(A-6)
- 銀座線 神田駅 出口(北口)

加入者名: ERIC (通信欄に「グロー・ミル・セミナー」と明記してください。)

参加費用振込先 郵便振替口座: 00180-5-710744

〒114 東京都北区東田端1-14-1 岩瀬ビル1F ERIC「グロー・ミル・セミナー」係 ☎03-3800-9416

(は昼食代も)は指定の郵便振替口座にお振り込みください。

★参加ご希望の方は、別紙の申込書にご記入のうえ、下記の住所宛にお送りください。また、参加費(昼食を申し込まれる方

後援 文部省、全国高等学校長協会、全国高等学校国際教育研究協議会、開発教育協議会、全国地理教育研究会、東京都地理教育研究会、帝塚山学院大学国際理解研究所

開催日程 1995年11月11日(土)~12日(日)  
 会場 東京YMCA国際奉仕センター 東京都千代田区神田美土代町7-1 ☎03-3293-7011

主催 国際理解教育センター(ERIC)  
 東京YMCA国際奉仕センター

# 1995.11.11-12 SEMINAR

国際理解教育研修プログラム「グロー・ミル・セミナー」開催のご案内

# GLOBAL



## [開催主旨]

ますます深刻さを増す環境問題や格差が広がるばかりの南北問題など、地球規模で解決しなければならないさまざまな課題が山積みする現在、一人ひとりが「地球市民」として自覚を持って考え行動することが強く求められています。このような状況を背景に、教育の国際化が叫ばれ、英語教育や帰国子女教育などの実践が行われていますが、1974年のユネスコ国際教育勧告、そして1994年に再度強調された環境、人権、開発、平和等の分野をカバーした広い意味での国際理解教育の取り組みは、現在の日本において未だ十分に行われていたとはいえません。

一方、イギリス、オランダ、オーストラリア、アメリカなどでは、教育現場（学校教育、社会教育）でさまざまな形の国際理解教育が展開されており、その実績には目をみはるものがあります。それらの成果の一部は日本にも紹介されるようになりましたが、必ずしも十分ではありません。

このような状況のもとに、青少年育成・国際協力活動等社会教育の推進に110余年の歴史をもつ東京YMCA、そして内外の実践紹介を中心に、国際理解教育の情報提供および研修を実施している国際理解教育センター（ERIC）の共催で、真の「地球市民」を育てる教育方法を学ぶ研修を実施することになりました。

今回のセミナーでは、国内外の講師を招き、写真を効果的に活用できる参加型学習法「フォトランゲージ」の具体的な手法や活動を紹介します。また、参加者自らのプログラムや教材づくりを通して、国際理解教育における「フォトランゲージ」という手法を十分に理解してもらいましょう。そしてさらに、このような研修の積み重ねを核に、日本における国際理解教育の内容を深め、その普及を推進しようというものです。

## P R O G R A M

### 11月11日(土)

- 9:00 受付開始  
10:00 研修Ⅰ  
「写真教材を使ったワークショップを体験」  
①「バナナの来た道」 長倉徳生  
②「地球の仲間たち」 高島みゆき／富岡紀子  
③「Photolanguage Australia, Profiles of Hunger」 Roslyn McDonald  
④「地球家族」 梅村松秀／飯沼慶一  
12:00 昼食  
13:00 研修Ⅱ（研修Ⅰと同じワークショップ）  
16:00 基調講演 Roslyn McDonald  
18:00 懇親会（バナナの試食会、NGOの教材紹介など）  
20:00 終了

### 11月12日(日)

- 9:00 研修Ⅲ  
「フォトランゲージを使って／つくってみよう」  
①「地球家族」を使って 角田尚子  
②NGOの写真資料の活用術 米田敏裕  
③市販の写真集（印刷物）を使って、メディア・リタラーを考える 福澤郁文  
④ちまたのGlobal Issue探検隊（自分で写真を撮り、情報の送り手体験をする） 河村信治  
（昼休み適宜）  
15:00 ふりかえり／まとめ コメンテーター Roslyn McDonald  
16:00 終了

# GLOBAL SEMINAR

## ●講師紹介

Roslyn McDonald (ロズリン・マクドナルド)  
World Vision Australiaの教育担当。シドニー大学教育博士課程在学中。過去10年間、様々な教育現場でフォトランゲージを活用している。

飯沼慶一  
私立成城学園初等学校教諭。SMILE（聖マーガレット生涯教育研究所）レンジャー。中京女子大学子ども文化研究所共同研究員。

梅村松秀  
都立竹台高等学校教諭。共編著：「地図と生活」「シミュレーション教材の開発と実践」「新高校地理授業の工夫とアイデア」「地域と生活―身近な地域の調べ方・教え方」（いずれも古今書院）

角田尚子  
国際理解教育センター（ERIC）事務局長。グリーンピース・ジャパン元代表。1994年4月から事務局長。

河村信治  
写真家であり、環境教育トレーナーとしても活躍。都立大学大学院都市科学研究科修士課程在学中。板橋区立エコポリスセンター環境学習指導員。

高島みゆき  
開発教育を考える会。1991年4月～1993年4月青年海外協力隊家政隊員としてトンガ王国に赴任。現在、都立小川高等学校家庭科教諭。

富岡紀子  
開発教育を考える会。1983年より2年4カ月青年海外協力隊隊員としてコスタ・リカ共和国に赴任。1992年より2年間、夫の仕事でスリランカに滞在中、音楽教室を開校。協力隊を育てる会のOB支援経費で援助を受け、指導に当たる。

長倉徳男  
写真専門学校を卒業後、フィリピンの子どもの写真を撮り始める。86年、日本ネグロス・キャンペーン委員会（JCNC）設立と共にボランティアとして関わる。現在、JCNCから生まれた貿易会社、オルター・トレード・ジャパンで、広報活動に携わる。

福澤郁文  
グラフィックデザイナー。独立戦争直後のBangladeshへ復興奉仕団の一員としてわたる。帰国後ヘルプ・Bangladesh・コミティを仲間たちと設立。シャプラニール＝市民による海外協力の会前代表。ERIC運営委員。株式会社designFF代表。

米山敏裕  
東京YMCA勤務を経て、1993年より開発教育協議会運営委員を務め、現在事務局次長。1993年4月にグローバル・エデュケーション・センターを設立。